４６億年の

１００大ニュース

制作：フジテレビ

４６億年の１００大ニュース

宇宙の中に存在するものは、すべて偶然と必然の果実である　－　デモクリトス

「歴史は常にビッグバン」　歴史はなぜある日突然に進むのだろうか？

１．ガイアの誕生　～約４６億年前

地球は多くの偶然によって誕生した。例えば太陽からの距離である。現在の距離よりほんのちょっと太陽に近いだけで地球は灼熱の星となり、ほんのちょっと遠いだけで氷の星となってしまう。酸素ももとからあった訳ではない。植物が偶然、発生した為に地球は酸素の星となった。その酸素を作り出す植物の光合成も、葉緑素が吸収する光と太陽の光の波長がたまたま一致したから可能になったに過ぎない。さらに地球のマグマの活動も月の引力によって助けられている。地底からのほどよい熱、月がなければ生命の発生はあり得なかったとさえいわれている。

２．生命体の誕生　～３５億年前

◆粘土（結晶情報ＤＮＡ説）

粘土の結晶は他の粘土にまるで遺伝するように伝わる。したがってＤＮＡ、つまり生命も粘土からという説。

◆彗星（生命化学変化説）

彗星は生命誕生に必要な分子をたくさん持っている。その彗星が原始地球に衝突することによって生命が誕生したという説。

◆熱水噴出口（マグマエネルギー説）

地底のマグマから上がってくる熱水によるエネルギーが、生命を誕生させたという説。エネルギー優先説。

◆宇宙光線（成層圏誕生説）

成層圏の上には宇宙光線がたくさん存在する。つまり太陽の光や宇宙のエネルギーで成層圏に生命が誕生したという説。

＊　生命の種が宇宙を飛んできたというパンスペルミア説は、生命の種「胞子」が宇宙空間を漂う間に強い放射線を浴びて死滅してしまうことが立証されて、否定された。

３．恐竜の絶滅　～６５００万年前

◆造山運動の影響－陸地が隆起して、それまで恐竜が住んでいた平地が狭くなった。

◆隕石の影響

恐竜が絶滅したために、これ以後哺乳類が地球の主役となる。

４．人類の誕生　～２００万年前
２本足直立歩行、手（５本指）の使用など人類の誕生の起源をどこに定めるかという議論は多いが、現在では、初めて道具を使った時が人類の起源だと考えるのが一般的。

５．農耕の発生　～１万年前
最後の氷河期が終わった１万年前、地球は温暖になり、環境が快適になった為に地球の人口は急激に増えた。それまで野生動物を食べて暮らしていた人類が人口５００万人を突破してしまう。もはや狩猟だけでは生きてゆけなくなった。この人類滅亡の危機に、人類は生き残るために「農耕」を発明する。

６．家族の誕生　～紀元前６０００年頃
同じ所に住み、受け継ぐものがある。人類の基本単位である家族制度ができ始める。

７．法律の誕生　～紀元前６０００年頃

８．貨幣の誕生　～紀元前６０００年頃

９．太陽暦の誕生　～紀元前６０００年頃

１０．宗教の発生　～紀元前６０００年頃

１１．麻薬の誕生　～紀元前６０００年頃
エンドルフィンとは、誰もが脳の中に持っている麻薬性物質のこと。このエンドルフィンが刺激されると人間はハイになる。麻薬の誕生は古代エジプトに逆上る。あのピラミッドは奴隷たちが麻薬を使用して作り上げたとされる。

１２．化粧の起源　～紀元前６０００年頃
もともと化粧は宗教や儀式の一部として始められた。紀元前４０００年頃のエジプトではすでに香料の製造会社や美容院が繁盛していた。アイシャドーはグリーン、リップ・カラーはブルー・ブラック、チークは紅。他にも胸の血管をブルーで描いたり、乳首を金色に塗るというメイクもあった。当時は、男性の化粧熱も高かった。

１３．結婚指輪の起源　～紀元前２８００年

輪というのは、始まりも終わりもないという意味で、結婚のシンボルとされた。はじまりはやはり古代エジプトとされているが、もうひとつ、花嫁として略奪されてきた女が男の家に繋がれた足枷の名残という説もある。ローマ時代になると男たちは女たちに金の指輪をプレゼントしはじめる。ポンペイの遺跡からは数多くの指輪が出土されている。つまり、その頃から妻は、夫の財産の半分は持てるという権利があったと考えられる。

１４．鉄の発見　～紀元前１４００年

最初に人類が鉄を発見したのは、山火事で溶けた鉄鋼石を見たときからだとされる。

１５．アルファベットの文字革命　～紀元前１２００年

アルファベット革命以前、文字はすべて「絵文字」であった。絵文字はひとつひとつに意味がある。だから何かを表現するとき、膨大な数の絵文字を必要とした。しかし、アルファベットは３０字以下の単純な記号を並べただけである。画期的な表記システムであった。

１６．第1回オリンピア競技会　紀元前７７６年

競技は２３種目。都市国家は、たとえ戦争をしていてもそれを一時中断してオリンピアに参加した。競技は全員裸で行った。

１７．バビロンの捕囚　紀元前５９７年

ユダヤ人には、イエス・キリストをはじめ、イスラム教創始者マホメット、経済学者あるいは哲学者としてあまりに有名なカール・ハインリッヒ・マルクス、精神病理学者ジグムント・フロイト、天才物理学者アルベルト・アインシュタイン、作曲家グスタフ・マーラー、小説家フランツ・カフカなど、さまざまな分野で我々に思想や芸術や娯楽を提供してくれた人物が多い。

ユダヤ人は最初、ナイル川のほとりエジプトにいた。そしてモーゼに率いられてシナイ山、死海、ヨルダン川を越え、ユダヤ人の祖アブラハムが神エホバから授けられたという「約束の地」カナンへと向かう。しかし、そこには非常にたくさんの宗教があって、絶対唯一神であるエホバを信ずるユダヤ人たちはそこで戦いを起こす。さして最終的に北にイスラエル、南にユダという王国を創るが、イスラエルはやがて滅びる。

そのころペルシャ湾のあたりに新バビロニアという新しい勢力が起こり、バビロンという町をつくる。新バビロニアは西へ勢力を伸ばしてゆき、そこで多くのユダヤ人たちを捕らえてしまう。これが後に歴史的に大きな意味をもつバビロンの捕囚である。

ユダヤ人にとっては、このバビロンの捕囚がすべての始まりだった。イスラエルという名の祖国はこのとき以来、２０００年にわたって地球上から消えた。カナンの地はこの間、

ずっと他民族の支配下となる。２０世紀になって、再びユダヤ人がこの地へ戻り、イスラエルが建国されるが、そこはパレスチナという名の争いの土地だった。

１８．ギリシャ都市・文化の成立　紀元前５００年

都市という名の空間が地球上にはじめて出現した。石で固めた人工的で狭い空間である。しかもそこには、今までばらばらに生活していた人々が信じられないほど密集して生活する。人と人との距離が急激に近づくのである。その空間の中心には広場がある。人々はまたそこに集まる。それまでの人類とはまったく違った生活の仕方である。そして、そこに文学（ヨーロッパ最古の詩人ホメロス）、科学（ピタゴラス）、哲学（ソクラテス）、医学など我々が今、文化と呼ぶものがわずか１００年ほどの間に一気に登場する。人間が密集することによって情報が切磋琢磨され、文化が前へ進むという図式ができあがる。その意味で都市の出現は人類の歴史上、大きな意味を持つ。

１９．儒教の成立　紀元前４００年

「小人窮すれば斯に乱る」－ピンチになっても取り乱すな。

「君子、重からざれば威あらず」－リーダーは、どっしり構えていなければ誰からも信頼されない。

「入りては則ち孝、出でては則ち弟」－家では親を、外に出ては目上の人を敬え。

「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」－真義を悟れば、たとえ死んでも構わない。

２０．アレクサンダー大王の東方遠征　紀元前３３４年

全ギリシャを統一したマケドニア王国は、コリント会議で宿敵ペルシャへの遠征を決定した。だが出発を前にして国王フィリップ二世が暗殺されてしまった。そこで、代わって即位したのがアレクサンダー大王である。大規模な侵略による帝国建設は彼から始まった。征服したのはギリシャ、エジプト、ペルシャ、インドにまたがる広大な地域である。

イッソスの戦いではダリウス王を、ティルスの戦いではペルシャ軍を寝返ったフェニキア人により２００隻もの船を手にいれティルス島を攻め落とした。ヒュダスペス川の戦いでは弓矢を使いインド軍を攻略した。

アレクサンダーはマケドニアの男たちとペルシアの女たちを集め１万組のカップルを作り結婚させ、自らはダリウス王の娘と結婚した。つまり徹底した異民族同士の国際結婚によって東西文化の交流を図ったのである。アリストテレスを師と仰いだアレキサンダー大王は壮大な世界帝国の夢を抱いていたといえよう。

２１．アッピア街道建設　紀元前３１２年

ローマがまだイタリアの小さな都市国家だった頃、ここから南イタリアへ向かって一本

の道路が作られた。これがアッピア街道である。自然な道ではなく、国家の計画事業として作られた世界最初の舗装道路である。人類史上で初めてコンクリートを使用し、２０００年を経た今でもほとんどそのまま使われている。その後、ローマ人は四方八方へのびる道をひたすら建設し、そのネットワークにより地中海を囲む大帝国を作った。このネットワークにより指示はすぐに伝わり、反乱の気配があれば軍隊がすぐに急行した。輸送が早いため、経済も文化も発達した。当時は道がメディアとなっていたのである。アッピアとはこの道づくりを提案した大臣の名前をとったといわれている。

２２．クレオパトラが女王になる　紀元前５１年

歴史上、最高の美女の誉れ高いクレオパトラは、エジプトの女王でもあった。大変な読書家で知性と教養の人であったと同時に、エロティックな詩を作り、官能的な視線で男たちを虜にした。後世には「王冠を戴いた娼婦」などと呼ばれることとなった。ローマ最初の独裁者シーザーもその後をとったアントニウスも、ともにエジプトに遠征すると帰れなくなった。クレオパトラの官能と情熱の虜となり、二人ともエジプトと同盟を結んでしまうことになるのである。力関係からいってローマに征服されてもおかしくないエジプトはクレオパトラの女としての魅力によって守られていたのである。

２３．キリスト生誕　紀元前４年

十戒（モーゼ）～旧約聖書

1．あなたは、私のほか何者も神としてはならない
2．あなたは、自分のために像を創ってはならない
3．あなたは、ヤハウェの名をみだりに唱えてはならない
4．安息日を覚えて、これを聖とせよ
5．あなたの、父と母を敬え
6．あなたは、殺してはならない
7．あなたは、姦淫してはならない
8．あなたは、盗んではならない
9．あなたは、隣人について偽証してはならない
10．あなたは、隣人の家をむさぼってはならない

「わたしはあなたがたにいう。だれでも情欲を抱いて女を見る者は、心の中ですでに姦淫を犯したのである。」～マタイ伝５章２８節

２４．ローマでコロセウム完成　西暦８０年

ローマにコロセウムと呼ばれる巨大なイベント・スペースが誕生した。このコロセウム

は多くの人々を集め、一喜一憂させ、感動を与えた。数万の観衆は共に泣き、共に手を叩いた。ローマが最も栄えた時代、民主主義のもと、自由な市民が集いあったコロセウムは人類最初の頂点の一つと言ってよいだろう。だが、まさにその瞬間、栄光のローマも滅びはじめていたのだ。福祉や自由を保証され満たされていたローマ市民は働こうとせず、イベントやエンターテイメントに明け暮れていたのである。当時の市民の流行語は「パン（グルメ）と見せ物（イベント）を！」つまり、ローマ衰退の最大の原因はこの市民の怠惰にあったといえよう。そしてもうひとつ、ローマ帝国衰退の原因をあげるとすれば、まわりにこのローマに匹敵する敵がいなかったということである。文化が発展するには異質なもの、未知なものとの出会いが必要である。まわりから刺激を受けることのなかったローマ文化は爛熟し、腐敗し、やがて滅んでいったのである。

２５．卑弥呼　邪馬臺国統一　西暦２６０年　（日本）

２６．アラビア数字の発明　西暦７００年頃　（アラビア）

２７．ゼロの発見　西暦５５０年　（インド）

２８．「復活の書」で西暦制定　西暦５２５年　（ローマ）

２９．科挙の試験制度　西暦５８７年　（中国）

３０．バレンタインデー始まる　西暦４９６年　（ローマ）

３１．神仏習合始まる　西暦７００年頃　（日本）

３２．タラスの戦いで製紙法、西へ伝わる　西暦７５０年頃　（中国）

３３．ビールの誕生　西暦７８６年　（ドイツ）
　メソポタミア・エジプト文明の頃からあったビールに、はじめてホップを入れたのがドイツ人。これによりビールにキレとコクが生まれた。

３４．源氏物語　完成　西暦１０１５年
紫式部による世界初の長編小説が生まれる。

３５．ボローニャ大学　創立　西暦１０８８年

北イタリアのボローニャに世界最古の総合大学がつくられた。その最大の理由は、ボローニャが貿易で栄えた大変裕福な町だったからである。そしてその後、経済的に余裕のある町には次々と大学ができはじめた。

当時、ボローニャ大学は大変国際的な大学で、フランス、ドイツ、イギリス、ポーランド、ロシアなどから多くの学生が集まってきた。印刷技術のまだない時代なので、講義もただ口伝えだけのものだった。

３６．十字軍　第一回遠征　西暦１０９６年

ローマ法王ウルバン二世は、たいへんなグルメであった。肉の味付けや保存に必要なコショウがその頃のローマには皆無であったので、これをなんとかしようと彼は１０９５年、フランスのクレールモンにヨーロッパ中の国王、貴族、僧たちを集めた。これがクレールモンの宗教会議である。表向きは聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回しようという看板が掲げられたが、実はただ自分の食べる肉料理に必要なコショーを手に入れるという理由から十字軍が組織されたのである。

十字軍は十何回も送られたがすべて失敗に終わる。しかしこれが後にいろいろな波紋を生むことになる。コショーは手に入れられなかったが、サラセンと戦ったことによりまず十字軍はヨーロッパに鉄砲と火薬を伝える。そしてこの十字軍の失敗により、キリスト教徒たちの中で法王ウルバン二世に対する不信感がつのり、やがてカルビン、マルチン・ルターなどによる宗教改革へと進展してゆくのである。キリスト教は大きく北に新教、南に旧教と分裂し、その旧教側から伝道師としてフランシスコ・ザビエルが布教のため日本の鹿児島にやってくる。日本にキリスト教と鉄砲が伝来するわけである。そしてこの鉄砲で信長と秀吉が日本を統一する。

３７．禅宗の伝播　西暦１１９１年

仏教の一派、「禅」が中国から日本へ渡った。この「禅」が後の日本へ与えた影響は計り知れない。茶道、華道、書道、能などはすべて禅文化と呼ばれるものである。つまり「禅」とは頭で考える西洋の哲学とは反対に、体で覚える哲学といえる。

３８．トゥルバドゥール登場　西暦１２００年頃

トゥルバドゥールとは吟遊詩人のこと。中世のフランスに大流行したラブ・ソングの弾き語り芸である。「恋愛とは１２世紀の発明である」とは、ある歴史家の言葉だが、トゥルバドゥールという画期的な恋愛表現の発明が、後のシンガー・ソングライターに発展していったといってもけして過言ではないだろう。元祖ニュー・ミュージックということになる。

３９．ワールシュタットの戦い　西暦１２４１年

チンギス汗からフビライ汗と受け継がれて世界最大の国家となったモンゴル帝国。１３世紀にはユーラシア大陸の大部分を支配していた。さすがにヨーロッパをすべて支配するというところまではいかなかったが、１２４１年ドイツと戦って打ち勝っている。これがワールシュタットの戦いである。アジアからヨーロッパに攻め入って勝利した非常に稀な例である。

この戦いによって生の挽き肉タルタルがヨーロッパに伝わった。しかし、生で食べるのは気持ち悪いといって、ワールシュタットに程近いハンブルグに住むドイツ人たちはこの挽き肉を鉄板で焼くことにした。これがハンバーグ・ステーキの始まりである。つまりハンブルグに住むドイツ人が焼いたタルタル・ステーキという意味である。これがさらにもっと西へいってアメリカで定着したのがハンバーガーである。

４０．マルコ・ポーロの東方旅行　西暦１２８０年

マルコ・ポーロがその著書「東方見聞録」で日本を“黄金の国”と紹介し、ヨーロッパにシナロジーと呼ばれる熱狂的な東洋ブームを巻き起こしたのはあまりに有名である。

マルコはモンゴル帝国元のフビライ汗に１７年間仕えた後に、生まれ故郷のベニスへ帰ったが、元にいた時代、マルコが会った日本人留学生がすべて滞在費用を砂金で支払っていたことも“黄金の国”のイメージを彼に抱かせたようだ。

いずれにせよこの西欧人の「東洋かぶれ」が、後の彼らの世界進出の原動力となったことはまちがいない。

４１．イタリアルネッサンス　西暦１３００年～１５００年

４２．機械時計の誕生　西暦１３００年頃

機械時計が登場するまで、人間は太陽の動きで時間を計測していた。したがって時間は、季節や場所によってバラバラで、雨になると時間が分からなくなるという状態だった。現存する世界最古の機械時計は現在ミラノの博物館にあるが、１日の誤差は１５分程度だったという。

中世は世界中が比較的おとなしく暮らしていて、人の動きは余りなかったが、１４世紀になると貿易がかなり盛んになって、都市には様々な民族の人間が一緒に暮らすようになった。民族が違えば当然習慣も違う。従って時計の鐘で生活のサイクルをあわせる必要があったという訳だ。国際化がさらにすすんだ現在では、世界中がグリニッジビレッジ天文時に標準時間をあわせるまでになっているのは承知の通りだ。

機械時計の誕生は、人間に時間を教えるだけでなく、そのライフスタイルまでを大きく変えてしまった。

４３．ペスト大流行　西暦１３４７年

世界中に行脚していたジェノバやベネチアの商人たちが交易品と一緒にモンゴルから持ち帰ったペスト（黒死病）はたちまちイタリア中に広まり、やがてヨーロッパ全土に広がった。この疫病ペストで死んでいった人は３，０００万人にのぼるといわれる。

それまでキリスト教社会にいた人々は、ここではじめて「神の国」ではなく「死の国」があるということを知ってゆく。「メメント・モニ」（死を思え）という言葉を口にしながら人々はダンス・マカブー（死の舞踏）へとのめりこんでゆき狂乱の時代がやってくる。

そして、「神の時代」ではなく、死をも併せ持つ「人間の時代」へと人々は目覚めてゆき、やがてそれがルネッサンスにつながってゆく。つまり、ルネッサンスというものは、まず人間には死というものがあるということ、その死はけして美しいものではないこと、そして様々な犠牲が伴うことを確認した所から始まったといってよい。

４４．サングラスの起源　１４３０年

中国では、裁判官が自分の表情を読まれないために黒い眼鏡を使用した。これがサングラスの起源となる。２０世紀になって、アメリカ空軍が太陽光線からパイロットの目を守るために現在のサングラスを開発した。

４５．グーテンベルグ　活版印刷発明　西暦１４５０年

ドイツ人、ヨハン・グーテンベルグが活版印刷を発明したことによって、それまで手で書き写すしかなかった貴重な書物が、大量にしかも安く出回るようになった。グーテンベルグは学問を民衆に開放したといえる。彼が発明した合金による活字の鋳造法は、今もほとんど変わらない。最初から完成していたのだ。

中世の人々は、目に見えるものだけを信じ、それによって物事を考えていた。しかし、この発明以来、人類はずっと客観的に、一歩ひいた立場で世界を見るようになった。印刷機が、自分達の知らない世界があったことを人々に教えた。信じられていたことをそのまま信じるのではなく、様々な角度から物事を見つめ直すことの重要性を教えた印刷機の発明が西欧の文明を開化させたといえる。

人々が集まって様々な物や情報を交換しあうという町という機能が人間文明の発達に多大な影響を与えた事実は周知のとおりだ。物の交換はすなわち経済と呼ばれ、情報の交換は文化と呼ばれる。そしてグーテンベルグのこの活版印刷の発明は、町や都市が持っていた利権の半分を、小さな紙で代行してしまうという画期的な発明だった。これにより情報伝達が飛躍的に拡大したのである。

情報交換の便宜を図るものをメディアという。メディアはこの後、通信の発達で、ラジオやテレビさらに通信衛星と進歩してゆき、現在では信じられないくらいの膨大な量の情

報の交換が可能になった。そのメディアの出発点がこのグーテンベルグの画期的な発明にある。

４６．コロンブス新大陸発見　西暦１４９２年

ジェノバ生まれのイタリア人クリストファー・コロンブスが、黄金の国ジパングをめざし、大西洋を西に向かって航海する。そしてアメリカ大陸を発見したのが１４９２年のことである。彼はこの新大陸を死ぬまでアジアと信じ込んでいたが、その彼がスペイン女王への献上物として持ち帰ったものが、トマト、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、カボチャ、アボガド、パイナップル、唐辛子、ピーナッツ、カカオなど西洋料理の命とも言うべきものばかりである。これはスープやソースなどあらゆる西洋料理の素材、あるいは主食として全世界の食卓に革命を引き起こした。現在、私達がファースト・フード店で食べているメニューのほとんどは、このコロンブスの“おみやげ”がなかったらできないものばかりである。

４７．コンドームの発明　西暦１５００年頃

コロンブスが持ち帰ったのはそればかりではなかった。梅毒である。彼らが持ち帰ったこの性病は、たちまちヨーロッパ全土にひろがった。やがて性器の接触つまりセックスによってこの病気が感染してゆくことがわかると、その予防のためにサックが考え出された。コンドームの誕生である。

初期のコンドームには牛の腸などが使われた。性病はこわいがすることはしたいという当時の無節操な貴族達がおもに使用した。性病の予防のために考案されたコンドームだが、これが実際に広まってゆくのは、２０世紀になって、バース・コントロールや避妊具として使用されるようになってからである。しかし、今日エイズ・ウィルスの発見により、コンドームは再び、性病予防の道具として見直されはじめた。

４８．マゼラン世界周航　西暦１５１９年

スパイスを手に入れるため、安上がりの西周り航路を探すマゼンラン一行はスペインを出港した。スパイスは金になる。一獲千金を夢見た彼らは、結果として世界一周という歴史に残る大偉業を成し遂げてしまう。

マゼランの世界周航は、地球が球体であることを証明したが、実際の航海は苛酷を極め、帰りついたのはマゼラン本人ではなく、２６５人中たった１８人の水兵たちだった。

４９．コペルニクス　「天体回転論」発表　西暦１５４３年

１６世紀には、地球は宇宙の中心でなければならなかった。教会の力が強かったからだ。神が作り上げたこの地球が、他の天体の周りを回っているわけはない、教会はそう主張し

てやまなかった。これに反対するものは死刑と、有無をいわさぬ弾圧をした。そんな時代に、地球は太陽の周りを回っていると主張したのがニコラス＝コペルニクスだった。

彼は星の動きを観察すると、どうしても地動説になることに気付いた。もちろん教会は必死で弾圧する。そんな中で、彼がようやく「天体回転論」を出版する頃には、彼は脳溢血のため死の床にいた。できあがったばかりの「天体回転論」を抱いて彼は数時間後にいきをひきとったという。１５４３年5月２４日のことである。

以後、科学は急速に進歩した。コペルニクスが科学を教会の手から解き放ってくれたからだ。教会と戦い続けた「理性の人」コペルニクス。しかし彼の本職は、実は「聖職者」であった。

５０．レパントの海戦　西暦１５７１年

１０月7日。地中海の東、ギリシャのレパント湾で、スペイン王フィリップ二世率いるヨーロッパ連合軍は、中東から攻め入ってきたオスマン・トルコ軍と交戦した。そして数時間の海上戦の末、ヨーロッパ連合軍が一方的な勝利を納めた。

この海戦でオスマン軍は、船の漕ぎ手として使っていたキリスト教徒の奴隷たち１５，０００人を解放する。これでイスラム世界の地中海進出の足掛かりは完全に失なわれた。この勝利で世界の西欧化が一気に爆発することになる。

スペインは、コロンブスの新大陸発見以降、世界的な規模で植民地拡大政策をすすめた。その勢いは「我々の海軍は無敵艦隊である」「ヨーロッパは、太陽の沈まない帝国」などという彼らの自画自賛の言葉からも伺える。オスマン・トルコ帝国の敗北により、ヨーロッパの世界進出は加速度的に強まり、世界各地がヨーロッパ人たちの都合で勝手に分割、運営されることになる。

５１．太閤検地　西暦１５９２年

豊臣秀吉は、農民から効率よく税を取り立てるために、１５８３年、検地帳を作って田畑の形やその所有者をきめていった。これにより、曲がった道はまがったまま、三角の土地は三角のまま固定されてしまったのである。その後は、その土地の売買が行われただけで、形は一切変わっていない。

日本の道が、曲がりくねり、ややこしく、わかりにくいのは豊臣秀吉の太閤検地の影響なのである。

５２．連合東インド会社設立　西暦１６０２年

大航海時代、ヨーロッパ人はアジア貿易で一儲けしようと、インドに次から次へと「会社」を設立した。やがて会社ができすぎてしまい、共倒れの危険性が出てきたので、そのリスクを最小限に押さえようと「個人が全て出資するのではなく、出資した株式ぶんだけ会社に貢献する」という株式制度が誕生した。東インド会社の設立である。これがあまり

に合理的で便利だったために、株式会社はあっというまに世界中に広まった。

大きな仕事をするための一種の道具として、株式というものは、実に効率のよいものだった。しかし、これにより会社とは、大きくなればなるほど個人の手から離れてゆくという宿命をもつことになる。

５３．デカルトの方法叙説　西暦１６３７年

ここにリンゴがある。このリンゴは赤い。しかし、このリンゴはほんとうに赤いのだろうか？それはただリンゴという物質の微粒子が、ある波長の光線だけを反射して人間の目の中のしくみを通して脳に“赤い”と知覚されたに過ぎず、実際にリンゴ自体は赤くないのではないか。このリンゴが赤いということは、単に赤く見えるというだけで、学問的客観性を持った知識ではないのではないか。

「我思うゆえに我あり」とは哲学者デカルトの有名な言葉である。彼は物質と精神とは根本的に次元の違う存在だと説いた。彼の哲学が、やがて近代合理主義へと発展してゆくことになる。もとはといえば、人間も環境のひとつである。人間中心の合理主義は、現在環境破壊という問題をクローズアップさせている。いろんな意味で人間の存在は、地球という環境の中で大きくなりすぎたといえるだろう。

５４．コーヒーハウスの誕生　西暦１６５０年

１６５０年、イギリス・ロンドンで世界初のコーヒーハウスが生まれ、たちまち大流行した。そしてこの、仲間が集ってコーヒーなどを飲みながら語り合うという習慣の中から様々なものが生まれた。まず、政党政治。イギリスの保守党ホイッグ党は、このコーヒー・ハウスの常連たちによるディスカッションの中から誕生した。そして、ジャーナリズム。人が集まるコーヒー・ハウスで世論というものが生まれ、新聞が育っていくことになる。会員制クラブという形式もここから誕生した。そして保険会社である。マリリン・モンローの足に保険をかけたということでも有名な世界最大の保険会社「ロイズ」は、もともとはコーヒーハウスであった。常連の貿易商をみんなで救おうとはじめられたのが、保険の始まりである。

５５．ハイヒールの誕生　西暦１６５０年頃

ハイヒールはもともと男の履物だった。１６世紀のフランス、流行させたのはルイ１４世である。彼は背の低さに劣等感をもっていたので、少しでも身長を高く見せようと、靴のかかとを高くしたのがハイヒールの始まりだった。ルイ１４世の劣等感が、今日のファッションをつくったというわけである。７０年代になって、ロンドン・ブーツが男たちの間ではやったが、ファッションというものは繰り返されるものである。

５６．ネクタイの誕生　西暦１６６８年

ネクタイの誕生にもルイ１４世は一役かっている。彼の宮廷に、ある日クロアチアの使節団がやってきた。その一行が首に巻いていた細長い紐がネクタイの起こりだったといわれている。

５７．微生物発見　西暦１６７６年

オランダで雑貨店を営んでいたレーウェン・フークは、レンズ磨きに一生をかけ、顕微鏡を作った。そして髪の毛や皮膚を顕微鏡でのぞき、精子やバクテリアを発見した。人間の肉眼で見えないミクロの世界にも生物が存在するということを証明してみせたのである。

５８．ニュートン　「プリンキア」発表　西暦１６８７年

宇宙と自然を支配する法則が、発見された。イギリス王立協会発行のフィロソフィカル・トランザクションズによると、ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジのアイザック・ニュートンは、「力」というたったひとつの概念で、宇宙の惑星の動きから、地上の物体の動きまでを数学的に説明することに成功した。

ニュートンは、「プリンキア」（自然哲学の数学的原理）の中で、まず絶対時間と絶対空間というものを設定している。そしてその中で、物体の運動と力の関係について数学的に考えた。その結果、太陽と地球間には引力が働いているということ、同様にあらゆる二物体間にも引力が働いていることを発見した。これが「万有引力の法則」である。ニュートンは、さらに力と運動の関係について考察した。そして、力を加えなければ物体はずっと同じ速度で運動を続けるということ（慣性の法則）、そこになんらかの力が加えられると、物体の速度が変化するということ（加速度の法則）、また物体に力を加えると、同じ力で物体から押し返されるということ（作用反作用の法則）、この３つの法則をつきとめたのである。これが「運動の３法則」である。これらの法則によって、宇宙と自然界に起こるすべての運動を、ニュートンは理論的に説明したのである。

「どこから、そんな力（万有引力）が生まれてくるのか？」という問いに対して、ニュートンは「それは神の仕業」と答えたという。

デカルトの唱えた「方法叙説」、そしてこのニュートンの「運動の法則」により、世の中に“機械的世界観”という西洋的考え方が一気に広まった。機械的世界観とは、つまり全体をまずバラバラにし、そして部分ごとに徹底的に検証し、全体の繋がりはあまり考えないというもので、この世界観は世の中の進歩のためには非常に効率のよいものの考え方で、実際我々の生活を豊かにしてくれていることは間違いないが、世界の中には、少数ながらこれとは全く違う世界観をもつ民族もいるということは肝に命じておかねばならないだろう。

５９．江戸元禄文化　西暦１６８８年

「古典主義がイタリア化であり、ロマン主義がイギリス化であったとすれば、同様に印象主義は日本化である」これは、ルイ・レオの言葉である。ここでいう日本化とは、１７世紀の江戸元禄文化をさす。浮世絵、俳句、歌舞伎など、ほとんどの日本の文化がこの時期にいっせいにできあがってしまった。中でも浮世絵は、世界中の芸術家たちを仰天させた。極端に長い顔、あり得ない色使い、それまでの洋画とはまったく違う浮世絵の手法は後に空前の日本ブームとなって、印象派を生み、美術史を塗りかえてしまった。日本が芸術面で世界に貢献した希有な例といえよう。

６０．バッハの平均律　西暦１７２２年

♯と♭とは、もともと違う音だった。これを１音１音すべてピアノの鍵盤にすると、ピアノは鍵盤だらけになってしまう。それを鍵盤の１オクターブ中で、多少強引に１２音に分けて平均に調律してしまったのがバッハの平均律と呼ばれるものである。しかし音楽はこれによって「転調の自由」を獲得し、一気にその表現力を拡大することになる。

６１．産業革命　西暦１７６５年

産業革命に貢献した３人を紹介する。リチャード・アークライトは、水力紡績機の発明者で、産業革命の立役者といえる。ジェニー紡績機を開発し、錦糸の生産をそれまでの３倍にしたのはジェームス・ハークリーブス。ジェニーとは彼の夫人の名前である。ジョン・ケイは、織機「飛び梭」を発明し、布生産を倍増させ、産業革命のきっかけを作ったが、お金に目ぐもまれず不遇であった。

６２．水洗トイレの発明　西暦１７７５年

水洗トイレができたのは、そんなに昔のことではない。最初の近代的水洗式トイレは、イギリスの数学者アレクサンダー・カミングの手によるものであった。彼は非常に神経質であった。彼はトイレの排水管をＵ字に曲げることを思い付き、トイレから悪臭を一掃した。便器の下のＵ字カーブは、下からくる悪臭をシャット・アウトする効果があるのだ。それ以前のトイレは、いわゆる「かわや」とか「おまる」であった。ヨーロッパでは、水洗トイレが普及するまで、排泄物をなんと道に捨てていたのである。礼儀正しいイギリス人は、窓から便を捨てる前に下を通る人に声をかけるというのがエチケットであったという。

６３．アメリカ独立宣言　西暦１７７６年

１９世紀のはじめ、白人の領土は世界中の３５％であった。しかし２０世紀にはあっという間に８４％にまでなった。このビックバン的拡大は、産業革命の影響であることはい

うまでもない。工業化による独走をしつづけたイギリスを追うかたちとなったのは、ドイツとロシアとアメリカである。そしてその中からアメリカだけが生き残った。その理由は２つの世界大戦である。大義名分のある正義の戦いに常に勝つことで、アメリカは巨大になってきた。正義は富をもたらす。大義名分と資本が両立した、地球上に例のなかった幸福な帝国アメリカの誕生である。２０世紀、アメリカは確かに世界秩序を守る警察として君臨した。世界をリードしてきた。

しかし、ベトナム戦争にはこの大義名分がなかった。だからアメリカ国民は非常に落胆したのである。アメリカ人は「正義」が好きである。

６４．フランス革命　西暦１７８９年

マリー・アントワネットがルイ１６世のもとに嫁いだのは、マリーがまだ１５才の時である。１７７４年、ルイ１６世は王位に就いたが二人の間には大きな問題があった。ルイ１６世は７年間マリーを抱くことはできなかったのだ。夫への不満がマリーを贅沢へと向かわせた。当時、ローズベルタンという婦人が作る洒落た帽子は町中の評判であった。やがて、宮廷にも評判は広まり、ローズベルタンはマリー・アントワネットの専属のデザイナーとなった。一方、民衆たちの暮らしは貧困を極めていた。華やかなベルサイユ宮殿の中以外は国中が飢えていた。パリのデモ隊を見たマリーには、民衆の叫びが理解できなかった。恋とお洒落に生きた彼女が断頭台の露と消えたのは故なきことではなかった。そして、気だけは強かった彼女は、断頭台の前に向かってこう言ったという。「早くしてよ。私待てない。」

ちなみにマリーの専属デザイナーだったローズベルタンは難を逃れてロンドンに移り住んだ。そしてマリー・アントワネットの専属だったことを売りにして自分のブランドの人気を広めた。デザイナーズ・キャラクター、いわゆるＤ．Ｃ．ブランドの第１号である。

６５．工場法の成立　西暦１８３３年

産業革命の先進地イギリスでは、労働者を平気で一日中働かせていた為、なんとかしなくてはいけないということで法律を作った。これが工場法である。現在の企業の基本労働時間である９ to ５は、ここで制定された。

６６．写真の発明　西暦１８３７年

フランスのダゲールは、銀板の上に映像を定着させるダゲレオ・タイプを発明した。今私達が使っているポラロイド写真のように、たった一枚の写真しかできなかったがこれはまさに人類にとって画期的なことだった。

６７．アヘン戦争　西暦１８４０年

アヘンに犯された労働者や農民が働く意欲を失うという深刻な経済危機を抱えた中国は、イギリスから輸入されたアヘン２０，０００箱を焼き捨てるなどの強行手段を取った。

しかしイギリス軍はこれに報復する形で、一方的に広東港封鎖という武力行使をとり、軍事力においてまさるイギリス軍が中国を圧倒した。

それまで、中国は海外貿易を広東港だけに制限し、事実上の鎖国政策を取ってきた。イギリスはかねてから、中国のこの排他的なやり方に反発を感じており、このアヘン戦争は中国のその外交のまずさが露呈したかたちとなった。いずれにせよ、経済的・軍事的にまさるヨーロッパ列強が、アジアを力でねじ伏せるという図式が現実となったわけで、この事件は数多くの波紋を各方面に投げかけることとなる。

その頃、日本は徳川幕府（家斉）によって、中国よりも厳しい鎖国政策が続けられており、一部の武士たちの間では、ヨーロッパとうまくつきあっていかなければ、日本もやがて植民地の運命をたどることになると、幕府の政策に疑問を唱え、開国への気運がだんだん高まりはじめた。やがてそれは明治維新へと発展してゆくことになる。

６８．マルクス＝エンゲルス　共産党宣言　西暦１８４８年

人類の歴史は弱肉強食、つまり力のあるものが世の中を支配するという自由競争の歴史だった。それが発展して資本主義と呼ばれる社会形態ができあがった。カール・マルクス、そしてフリードリヒ・エンゲルスによるこの共産党宣言はその資本主義社会に警鐘を鳴らした、人類の歴史への挑戦であった。

１９１７年、この共産主義を旗印に掲げたレーニンなどによりロシア革命が勃発した。社会主義国家の誕生である。そしてその後、２つの世界大戦を経て、社会主義は、アメリカなどを中心とする資本主義社会と、世界を２極分化するまでに成長する。しかし、１９８０年代後半から９０年代にかけて共産主義はどんどん後退しはじめ、１９９１年ついに社会主義国のリーダーであったソビエト連邦は崩壊する。

６９．カリフォルニア　ゴールド・ラッシュ　西暦１８４８年

この年、カリフォルニアで発見された金鉱は、アメリカ人開拓者たちを熱狂させた。多くのアメリカ人は金を求めて、争って西海岸へと向かった。ゴールド・ラッシュである。「マニフェスト＝デステニー」（明白な膨張の運命）は、当時のアメリカ人の合言葉となった。アメリカが西へ膨張してゆくのは神の運命だというわけである。そして開拓しつくした西海岸の遠い太平洋の果てに日本があった。

このゴールド・ラッシュでサン・フランシスコに来た開拓者の中にリーバイ・ストラウスという仕立て屋がいた。ジーパンの生みの親である。幌馬車の帆布で生地をつくり鋲で補強するというジーンズは、現在日本の若者のファッションの主流になっている。「マニフェスト＝デステニー」は間違いなく海を越えたといえよう。

７０．ダーウィン　「種の起源」発表　西暦１８５９年
ダーウィンは「神は創造主である」という聖書の言葉を否定し、人間は猿から進化したものだと発表した。

７１．パスツール　免疫予防に成功　西暦１８８０年
伝染病はそれまで悪魔の仕業といわれていた。しかし、パスツールは研究の結果、その原因は細菌によるものだと発表した。彼は、伝染病を神の手から解放したといえる。この免疫予防により、コレラや淋病は、不治の病ではなくなった。

７２．ツルゲーネフ「父と子」で“ニヒリズム”広める　西暦１８６２年
彼のニヒリズムは、「俺達にゃ、関係ねえよ」という現代の若者達の風潮に大きな影響を与えている。

７３．ニーチェ「ツァラトゥストラはかく語りき」発表　西暦１８８３年
ニーチェは「神は死んだ」と解いた。そして神に変わるものは、意志をもった超人だといった。それまでの人間は「真善美」というものに偽りの崇拝をもっていた。彼の哲学は、人間を解放したといってよい。しかし、彼のこの超人思想が後にヒットラーを生むことになる。

７４．ヘボン来日、ローマ字普及　西暦１８５９年
ワープロや現在のハイテクは、ヘボン式ローマ字がなければ語れない。

７５．リーバイス、ジーンズ生産　西暦１８７３年

７６．エジソン白熱電灯発明　西暦１８７９年

７７．ベル　電話発明　西暦１８７６年
彼の発明により、情報がリアル・タイムで伝わるようになる。

７８．米西戦争　西暦１８９８年
１２月１０日、４カ月にわたったアメリカ・スペイン戦争の終結するため、パリ平和条約調印がパリで行われた。この調印により、コロンブスのアメリカ大陸発見以来、４世紀にわたって繰り広げられてきたスペインの、太平洋を含む世界的な植民地政策は事実上終結し、その栄光の時代は終わりを告げた。そして、その代わりに登場してきたのが建国か

ら１００年たらずしかたっていないアメリカ合衆国である。この調印でアメリカは、ハワイ諸島、グァム島、フィァリピンなどを正式に領土とした。

この戦争を評して、当時のジョン国務長官は"The Wonderful Little War"と呼び、ルーズベルト大統領に送った。アメリカ１００年の歴史は、開拓を西へ西へと向かうフロンティアの時代であった。そしてアメリカはついに海を飛び出した。優秀なアングロ・サソンは、有色人種の面倒を見る責任があるという一方的な理屈で、太平洋を拠点に世界進出に乗り出したのである。

７９．パリ万博開催　西暦１９００年

１９世紀後半から国際協力が一挙にブームとなる。そしてその代表的イベントのひとつとして万国博覧会がパリで開催される。人類はやっと、世界がひとつになって何かをしようということを考えはじめる。

さて、このパリ万博あたりから、実は"モータリゼーション"（車社会）が始まった。万博の開催と、自動車技術の発達が見事にドッキングして、パリにはヨーロッパ各地から車が大集合した。まるで車の博覧会のようだったという。

パリのタイヤ・メーカーであったミシュランは、ここで名案を考え出す。パリ万博にくるお客のために、パリのガイド・ブック「ミシュラン・ガイド」をつくったのである。そしてこのガイドは簡単な地図だけを載せるのではなくて、快適なドライブができるようにミシュラン社が独自に選んだレストランやホテルの情報を載せ、星の数でランク分けし、そのグレードを示した。カタログ文化の始まりである。車、イベント、ガイド・ブックという現代若者の定番パターンはすべてこの万博から始まった。

８０．フロイトの夢判断　西暦１９００年

人類が太古の昔からごく自然にもっていたプライドを、覆す事件が歴史上３回あったといわれている。ひとつはコペルニクスが地動説を唱え出した時、２度目は、ダーウィンが人間の祖先はサルだといいだした時、そして３度目はフロイトである。彼は「人間は自らコントロールできない無意識な欲望に支配されている」といった。社会心理学者エイリッヒ・フロムがこういっている。「フロイト以前の時代には、我が子を罰するのはその子の発達を助けるためであると信じていた人があれば、それを本当に信じている限り彼は全く正直な人間といえただろう。フロイト以後は、彼の信念が自らのサディスティックな願望の単なる合理化にすぎないのではないか－すなわち、彼は子供を殴ることに快感を感じていて、その単なる口実としてそれが子供のためなのだ、と考えているのではないか－が、決定的な問となった。」

８１．ウォルト・デズニー生誕　西暦１９０１年

ウォルト・デズニーが現代の我々のライフ・スタイルに貢献したことと言えば、ミッキー・マウスやドナルド・ダックといった人気キャラクターたちのキャラクター商品の開発、ロサンゼルスや東京のデズニー・ランドなどのアミューズメント・パークの発明、そしてアニメ映画の創出である。彼はその作品を通じて我々にこう言っているような気がする「夢は、かなえるためにあるんだよ。」

８２．ライト兄弟　動力飛行に成功　西暦１９０３年

人類の空への挑戦は七転八倒の歴史だった。そんな中でこの年１２月１７日、初めての動力飛行に成功した彼らの公認飛行記録は、飛行距離３６．６メートル、滞空時間１２秒というものだった。

８３．日露戦争　西暦１９０４年

５月２６日、ロシア本国からバルチック艦隊が、日本領土対馬列島沖に進攻してきた。迎え撃つ日本海軍司令長官東郷平八郎は全軍にこう伝えた。「天気晴朗なれども、波高し」つまり、敵はよく見える、波が高いのは小回りのきく我が軍に有利という意味だ。この打電通り、日本海軍は無敵といわれたロシアのバルチック艦隊を撃破する。

近代にはいってアジア人、アフリカ人は白人に戦争で勝ったことは一度もなかった。ヨーロッパ列強が世界中に植民地政策を敷いてから、彼らと戦争をして勝利したのは日本軍がはじめてということになる。これにより日本は世界の一等国の仲間入りをした。この後、この日本軍勝利に刺激されて、それまで植民地だったアジア諸国に独立の気運が高まってくる。

８４．アインシュタイン　「特殊相対性理論」発表　西暦１９０５年

特殊相対性理論　①光りに近い速さで移動すると物体は重くなる。②光りに近い速さで移動すると物体は縮む。③光りに縮む速さで移動すると、時間はゆっくり進む。

８５．ロシア革命　西暦１９１７年

８６．バルフォア宣言　西暦１９１７年

第１次世界大戦中、２たつの民族のどちらにもいい顔をしたため、ドロ沼状態が現在まで続いているという例がある。パレスチナ問題である。その張本人は当時のイギリスの外相のバルフォア。彼は資金援助獲得のため、ユダヤ人たちの２０００年来の悲願であるパレスチナでのイスラエル国家建設に協力する宣言した。これがバルフォア宣言である。ところが、イギリスはその２年前に、マクマホン宣言で、アラブ人に対してもこのパレスチナの地での建国に協力すると約束していた。アラブの兵力が欲しかったからだ。イギリス

の２枚舌である。イスラエルは強引にこの地に建国したがこれで、争いが起こらないわけがない。何度も繰り返される中東戦争の争いの火種がここにある。

さて、ここで、１９１７年当時の世界情勢と現在の国際情勢が非常に酷似しているという点に触れねばならないだろう。まず１９１７年には第１次世界大戦、そして１９９１年には湾岸戦争という複数国家による戦争があった。国別に見ていくと、１９１７年ドイツとロシアが理想国家建設を目指して、それまでの王政をつぶし、それぞれ民主国家、社会主義国家として大変身を遂げる。そして、奇しくも現在、ドイツはベルリンの壁がこわされ東西に分かれていた国家は統一され、ソビエトは社会主義に決別しＣＩＳ（独立国家共同体）として、ともに新しい道を歩みだしている。両国は７０年を経て同時期に大変身をしているのである。米英を見てみよう。１９１７年、国の一大事で中東への影響を一時なくしてしまったロシアにかわり、米英が中東に介入してくる。この図式はそっくり現在にあてはまる。１９１７年当時、日本は黄禍問題の真っ只中にいた。中国、ロシアという大国を破って破竹の勢いの日本を今のうちに叩いておこうと、欧米諸国による第１次ジャパン・バッシングが盛んになってきていたのである。第１次大戦中、日本は兵力はちょっとしか提供せず、ひたすら内需拡大に努め、戦場となり国力の落ちたヨーロッパの国々を横目にせっせと物資をつくり経済的に潤っていった。この状況も現在に非常に酷似しているといえる。

歴史は繰り返されるなら、この先の世界情勢はいったいどうなるのか。１９１７年当時をもう一度振り返ってみよう。ドイツ・ロシアは理想国家建設後、経済の破綻からヒットラー、スターリンという独裁者を生む。アメリカは国際秩序の建設に力を注ぎ、国際連盟をつくる。そして平和維持という大義名分のもとに最強の軍隊をもち、世界の経済をリードしてゆく。そして日本は、内需拡大を米英に叩かれ、次第に戦争への道を歩んで行くのである。歴史は本当に繰り返されてゆくのか？

８７．ル・コルビュジエの機能主義　西暦１９１８年

明治・大正に建てられた古いビルには、それぞれに個性があり、いろいろな装飾が施されているが、現代のビルはほとんど同じ形をしている。これは、今世紀初頭に活躍した建築家ル・コルビジェの影響が大きい。彼の作った住宅が目指したものは、住むための機能を最優先した機能主義と呼ばれるものだった。彼は住宅を「住むための機械」と表現した。スペースをぎりぎりまで確保するために、壁も天井も四角にし、暖房費節約のため、窓をなるべく大きくとって光を最大限室内に採り入れる。たとえ土地が狭くても快適に暮らせるように作られた彼の建築は特に大都市に歓迎された。代表作サヴォア邸（１９２９年仏）は、現在日本のおしゃれな代官山や青山のマンションの手本になっている。

また、彼は超高層ビルを中心とした様々な都市計画も発表している。彼の都市計画は、いまや世界中の都市つくりに反映されるバイブル的な存在になっている。

８８．マルクス・ブラザーズ　映画デビュー　西暦１９２９年

現在のテレビ番組のギャグの元祖はマルクス・ブラザーズだといえる。いつものメンバー、いつもの服、派手なアクション、意味のない会話・・ひっぱりまくっていつものオチ。これはまさにテレビのノリといえる。同時代に天才チャップリンがいるが、彼のギャグは芸術肌で風刺的、確かに質は高いけれどテレビには向いていなかった。

８９．原子力の発見　西暦１９３４年

アインシュタインが原子力を発見したとき、これを公表するか、しないか彼はさんざん悩んだという。そのエネルギーのあまりの大きさに、使い方を一歩間違えば人類はとんでもない道を歩むことになる。彼の思い描いた悪夢は現実のものとなった。科学の進歩は確かに我々の生活を大変便利にした。しかし、原子力の発見は、科学がただやみくもに進歩すればいいというそれまでの風潮を見直す意味で重大な事件だったといえる。

９０．テレビ放送始まる　西暦１９４５年

動く画像を電波で送るというテレビの原理は１９世紀半ばドイツで考えだされた。２０世紀になって、イギリス人ベアードは、自分で作ったテレビの素晴らしさを新聞で発表したが、公開実験の段階で画像はあまりに不鮮明で、人々の期待を裏切った。テレビを一気に発展させるきっかけとなったのは、ドイツ人のブラウン博士によるブラウン管の発明だった。これにより、テレビは電子式となり、画像は今のように鮮明になった。

テレビが始めて本格的に放送されたのは１９３９年のニューヨーク博覧会の開会式においてだ。

９１．ピースサイン登場　西暦１９４５年

ピースサインはもともと、ナチ支配下のレジスタンスの暗号用として生まれた。後にヒットラーを倒したイギリス首相チャーチルが、新聞記者に向かってピースサインを出した。ビクトリーのＶというわけだ。それがヒッピー文化の時代、旧体制への反発として、つまり平和を表すという意味のピースサインに変化した。

９２．ビキニ環礁で核実験　西暦１９４６年

ビキニとして世界中の女性に定着したあのツーピースの水着には、世界最大の不謹慎の歴史が隠されている。１９４６年7月１日、アメリカがビキニ環礁で核実験を行って世界中から非難されたころ、パリのデザイナーが自分でデザインした水着をビキニと命名し、センセーショナルに売り出した。原爆実験がビキニの名前の由来というわけだ。

９３．トランジスタ発明　西暦１９４７年

ラジオは、トランジスタの発明なしには生まれなかった。２０世紀の初め、真空管より

もっと小さく優れた電流の増幅装置を開発するため日夜努力を続けていたのがウィリアム・ショックという人物だ。彼はこの年１２月、米粒ほどの小さな半導体の結晶に電流を１００倍近く増幅させる作用があることを発見して、トランジスタが誕生した。史上最大の技術革新であったといっても過言ではない。トランジスタは、ラジオのみならず、テレビ、ワープロ、パソコンと、その用途は広範囲に及んでいる。

９４．吉田茂内閣誕生　西暦１９４６年

現在の横浜新道は、当時湘南の大磯に住んでいたワンマン宰相吉田茂が、毎日国会へ通うため弾丸舗装道路としてつくらせたもの。

９５．ノイマン型コンピューター完成　西暦１９４９年

コンピューターはもともと、アメリカ軍が兵器として開発したものだった。計算するということに関して、人類は長い間、様々な方法を考えてきた。指を折ったり、そろばんを使ったりなどなど。そして世界初のコンピューター「エニアック」が誕生した。アメリカ陸軍の要請でペンシルバニア大学がつくったものである。コンピューターは当初、大砲の弾道計算のために使用しようという目的で開発が始まった。また複雑な計算が必要な原爆の開発にも使おうと、その完成が急がれた。そして完成した「エニアック」は、人間の２０万倍の計算をこなすという画期的なものでしたが、１万８千本の真空管を使い、スイッチが６，０００個もあったりと、とても人間が一人で使える代物ではなかった。それが、ひとりで使えるようになったのは、フォン・ノイマンによるプログラム内蔵方式が完成されたからである。彼が作ったコンピューターは「ＵＮＩＶＡＣＩ」という。彼は原爆の開発担当技師でもあった。原爆とコンピューターは兄弟というわけだ。現在、使用されているあらゆるコンピューターはすべて「ノイマン型」ということになる。

９６．ＤＮＡ螺旋状発見　西暦１９５３年

ＤＮＡが、遺伝子の本体であることはわかっていた。しかし、どうして遺伝情報という精密なものが、伝えられるのかということに関しては謎だった。それは「神の御手の中にある」といった科学者もいたが、ワトソンとクリックがそのからくりを明らかにした。それはパンドラの箱を無理やりこじあけたのだともいえる。それは神秘的な二重螺旋構造をしていた。人類が太古の昔から「神の仕業」と呼んできた生命の神秘を人類は今手に入れかけていることだけは間違いない。

マサチューセッツ工科大学に、プファイファーという学者がいる。彼が実におもしろいことをいった。ＤＮＡにおける分子による遺伝子情報の配列パターンと、コンピューターの入力時のプログラム配列パターンが非常に似ているというのだ。コンピュータの開発と

ＤＮＡの研究とは、まるで分野が違う。それぞれの研究開発はもちろん、数学、生物学というまったく異なる分野でなされてきた。その結果、人間がつくる究極の機械といわれるコンピュータと、それをつくる人間を構成するＤＮＡが、図らずも非常に似た構造をしているということは、なにやら非常に暗示めいているような気がする。この先、人類が「生命の神秘、宇宙の神秘を説き明かす」のはほぼ時間の問題であろう。人類の進歩が急激に前へ進んだのはほんとうにこの３０年の間である。考えてみれば、我々は大変な時代に生きているのだ。

９７．ガガーリンの「地球は青かった」　西暦１９６１年

１９６１年、ソ連は世界初の有人ロケット「ボストーク１号」の打ち上げに成功した。人類は初めて宇宙をとんだのである。宇宙飛行士ユーリー・ガガーリンは「地球は青かった」というメッセージを地球に送ってきたが、それは送られてきた映像が白黒であった為、色を伝える必要があったからだ。しかし、その後の宇宙開発技術の革新はすさまじく、今では人工衛星から送られるデジタル信号が印刷メディアの紙幣を駆逐して、商取引の基本とさえなっている。コロンブスが大西洋に出て、新しいビジネスを始めたように、現在は宇宙でビジネスをする時代に入ったといえよう。

９８．ビートルズ　デビュー　西暦１９６２年

ビートルズが成し遂げた革命というのは枚挙にいとまがない。長髪、ジーパン、サイケデリック、インド文化、ラブ＆ピースなど、若者文化の原型といわれるものはほとんどすべてこのビートルズからでてきたものだといっても過言ではない。しかし、その中でも特筆されるべきビートルズの革命が、「アートとしてのロック」を作り上げたということである。それはどういうことか。

芸術学としてビートルズをみてみよう。そもそもロック・ミュージックを最初につくったのはビートルズではなかった。しかし、このバラエティあふれるロック・ミュージックに最初の様々な型をつくったのは間違いなくビートルズである。芸術ではこの「型をつくる」ということが非常に大切なことだといわれている。すべての芸術は同じパターンで生まれて成長し、そして滅んでゆくという周期があるといわれる。これをまず、クラシック音楽の歴史でみてみたい。

クラシックの型をつくったのは、ご存じのようにモーツァルトとハイドンである。古典的な基本定型をつくったということで彼らは普通、古典派と呼ばれる。やがてそれがだんだん飽きられてくると、さらにもっといろいろなことを表現しようと、その古典派の基本は守りつつも、一部分でもっと刺激的なこと、ロマンチックなことを取り入れてみようという動きがでてくる。ベートーヴェンやブラームス、ショパン、シューベルトを中心としたロマン派の登場である。しかし、これも世の中に行き渡ってしまうと、今度はその刺激

的で斬新な部分をもっと強調してゆこうという動きが出てくる。これがラベルやドビッシーなどの印象派である。このあたりまでくると古典派の人達が最初につくったクラシックの基本はほとんど、無視された状態になる。そして、この基本をついに完全に無視してしまったのが、シェーンベルクやジョーン・ケイジたちの前衛である。ここに至っては、和音を鳴らすなどということはほとんどない、理解すること自体が不可能という難解な音楽になってしまう。さて、ここまでくると次はどうなるか。次に登場してくるのは、新古典派と呼ばれる人達である。つまり難解になりすぎた音楽をもう一度、基本に戻そうということである。

このサイクルは、ジャンルをかえて、絵画の歴史にもそのままあてはまる。まず古典派にあたるのは、ダ・ビンチでありラファエロ、ロマン派にあたるのがドラクロア、印象派にあたるのがルノアールやモネ、そして前衛となるのがあのピカソでありクレーということになる。

話をビートルズに戻そう。つまりビートルズの偉大さは、ロックの型を作ったばかりではない。その作った型を、自らそれを壊してどんどん変身していった点にある。ロックの歴史の中で、古典派に相当するのはもちろんビートルズである。そして、それを少しずつ崩して、新しい刺激を加えてロマン派になっていったのが、クリームやレッド・ツェッペリンたちのニュー・ロックである。そしてビートルズたちも「リボルバー」や「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」などで、自らの型を崩し、ちゃんとこの流れに乗っているのがすごいところなのである。さらにもっと崩した印象派になるとピンクフロイドやイエス、サンタナなどのプログレシブ・ロック。前衛として、キング・クリムゾンやジョン・マクラフリンという難解なロックの登場ということになる。そして、ゆくところまでいったロックは基本に戻る。Ｔ－レックスなどのグラム・ロックは新古典派といえよう。勿論、ビートルズも最後に発表した「レット・イット・ビー」で再び基本に戻っている。

ここで、ひとつ気がつくことがある。芸術の寿命が明らかに短くなっているということである。クラシックが１５０年かかったと同じことが、ロックではわずか１０年足らずで行われている。ちなみにジャズを考えても、４０年そこそこであろう。芸術は一度発展の過程を終えてしまうと、後は繰り返しの周期になる。現在でもクラシックや昔のジャズのＣＤが売れるというのは、この繰り返しの道理があるからなのだ。では、どうして芸術の寿命は短くなってしまったのか。その理由はたったひとつである。つまりメディアの存在だ。モーツァルトの時代は、彼の音楽が世の中に浸透するのに３０～４０年はかかった。ベニー・グッドマンやグレン・ミラーたちのジャズの時代で５～６年、ロックの時代に至っては２～３年である。メディアの強烈な発達で、成長した芸術がほとんど瞬時に世界中に伝達されてしまう為、逆にあきられるのも早くなるという図式である。メディアが芸術を消化してしまうのである。

今後、芸術のはやりすたりの周期はさらに短くなるだろう。それは、それを作り出す人達の才能が涸れてしまうのではない。メディアがその才能を食いつぶしていって上滑りということに他ならない。

９９．ローマクラブ　「成長の限界」発表　西暦１９７２年

芸術に寿命があるように、文明にも寿命がある。緻密な研究でそれを明らかにしたのが、ローマクラブの「成長の限界」レポートである。「人類の危機プロジェクト」と称して、１９６８年に発足し、世界４０カ国から最高の知性を集めた国際研究機関ローマクラブは、地球がまるで無限であるかのように資源を消費する現代文明がそう遠くない将来、崩壊するだろうということを示した。９０年代になって環境汚染問題が深刻化するだろうことをすでに彼らはこの時、予測していた。当時の国連事務総長ウ・タント氏は次のように述べている。

「芝居がかっていると思われるかもしれないが、私は事務総長として知っている情報から次の結論を下している。国連加盟国が、古くからの争いをひかえ、軍拡を抑制し、環境を改善し、人口爆発を避け、新たな開発をはじめるために必要な力の供給を目指して、世界的な協力を開始するのに残された年月はあと１０年しかない。今後もしそれが進展しなければ、問題は驚くべき程度にまで深刻化し、我々の制御能力を超えるだろう。」

１００．１００大ニュースをふりかえる　現在

１９６０年代という時期に、人類が宇宙へいったということはやはり大きな意味をもつ。これにより、例え映像を通してとはいえ、人類は始めて、宇宙という死の空間から、生きている地球を客観的に見たのである。宇宙から送られてきた地球の映像には、国境線もなければ、資本主義、社会主義という色分けも、もちろんありはしない。考えて見れば、今からほんの３０年ほど前の人達は地球というものを絵か地図でしか見たことがなかったわけである。

１００大ニュースをふりかえってきて、我々は実際ものすごい時代に生きているんだという実感がある。人類誕生以来、我々の現在の生活に大きな影響を及ぼしたビックバン的出来事のほとんどは、ここ数百年の間に起こっており、さらにここ１００年を見れば時代はさらにめまぐるしくなっている。ここまで１００項目、ふりかえってきた人類の歴史上重大であった事件・発明・発見の数々は、乱暴な言い方をすれば、もともとは個人の私利私欲および国家（都市）の繁栄のために必要であった出来事だったといえる。地球上のいろいろなところで、それぞれの環境の中で暮らしていた人々が、それぞれの利害の中で独自に始めたことが結果的に時勢に受け入れられて世界中に広まったのである。

交通やメディアがまだ未発達だった時代、日本に住んでいた人達に地球の裏側のヨーロッパで起きていることが、リアル・タイムに影響をおよぼすことは考えられなかった。ヨー

ロッパに住んでいる人達も、日本に住んでいる人達も、自分達の世界のことで手いっぱいだった。自分達のまわりの狭い世間だけがこの世のすべてだった。しかし、文明の発達と共にそれぞれの世界は確実に拡大してゆき、やがて人類は地球の姿を知り、大きさを知る。そして現代、宇宙へまでいった我々はついに地球を「見る」ことになるのである。今我々は自分達のしていること、しようとしていることが、地球にどんな影響を及ぼすかということを知っている。地球の大きさも、我々が使っている資源が有限であることも、自分達を取り巻く環境のメカニズムも、そしてそれまで神の領域だった生命のメカニズムでさえも、我々は手に入れかけてしまっているのである。２本足で歩く猿が、初めて道具を手にして以来、人類は地球のイニシアティブをとってきた。そして地球のことなどまるでおかまいなしにここまで進歩してきた。その結果、４６億年の地球の歴史から見れば、ほんの一瞬にしかすぎないようなごく短い期間に、人類は地球を大規模に「消費」してしまうことになる。ここまで大きくなってしまった人類が、この先、地球のことを考えずにさらに大きくなっていったとしたらどうなるだろうか。

科学の発達により人類は、人類すべてを壊滅させてもあまりあるほどの兵器をもつことになる。しかし、人類は今地球的規模で軍備縮小を実行しはじめている。４００年前、ヨーロッパから種ケ島に伝わった火縄銃が最新近代兵器だった頃、織田信長はこれを使って日本を統一した。歴史の「ＩＦ」は反則を承知で言うが、もしその彼が仮に核兵器をもっていたらどうだっただろうか。おそらく彼は日本統一のために、それを使用してしまったのではないだろうか。つまりそれは、核兵器という科学力をもつに見合う倫理観を、戦国時代に住んだ織田信長はまだ持ち合わせてはいないだろうということである。人類は確実に成長している。文明の発達と共に、それに見合う価値観や倫理観も一緒に身につけてきている。そして人類はやっと自らの手で、文明のその無節操な発展に警告をだし、ブレーキをかけはじめた。「地球」という単位でものを考え始めたのである。明日を考えずにこのまま暴走を続ければ、そのうち地球から強烈なしっぺ返しを食らうことを、我々はうすうす感づいてきている。地球との共存をそろそろ考え始めなければいけないということを、我々は誰もが知識としてもっている。ただ、さし迫っての危機感は、まだ大多数の人がもっていない。わかってはいるが、では何をすればいいんだ、別に今すぐでなくてもいいだろう。自分がやらなくても、きっと誰かが何かやってくれるだろう。今は誰もがそう思っている。

かつて人類の代表として宇宙を飛び、地球の外から青く美しい星地球を見た飛行士たちの多くは、リタイア後、地球の環境問題推進や宗教に取り組むようになるという。地球はけして大きな星ではないのだ。宇宙開発技術が進み、ちょうど今の海外旅行ブームのように人類の誰もが宇宙へ行く時代がやがて来るだろう。そして、誰もが肉眼で地球を眺めるようになった時、きっと人類は自分達のエゴを捨て、地球と自分達のために何かをはじめなければいけないと思うようになるに違いない。そのとき、人類ははじめて大人になれる

のだと思う。

かつて人類は人口増加のため、狩猟だけではとても食べてはいけ[illegible]という人口増加の危機に直面した。しかしそれは、農耕の発明というとんでもない[illegible]た。同じように、現在の我々の生活を支えている地下資源がそこをついた[illegible]な発想をもってそのピンチを切り抜けるだろう。あるいは、自分達の[illegible]に、結局自滅の道をたどるのか。いずれにせよ、その答えがでるまで[illegible]はかからない。

我々が今地球のために何ができるか？そんな講釈をたれるつも[illegible]ただ、この地球の１００大ニュースを振り返ってみたことが、何かを考えるヒ[illegible]ればいいと考える。この１００大ニュースは、あくまで現在に住む我々の目から見た[illegible]００大ニュースである。地球の４６億年の歴史の中から、現在の我々の生活に大[illegible]た事件だけを１００項目並べたに過ぎない。しかし、人類の歴史はたかが[illegible]、地球の４[illegible]億年の歴史の中ではほんの閃光ほどの長さだ。今でこそ、人類はこの地球[illegible]を謳歌しているが、やがてこの先、どんなかたちで最期の日を迎え[illegible]。それは地球にとっては実は痛くもかゆくもないことなのだ。かつて、地球上[illegible]いた恐竜が絶滅したように、氷河期の訪れで死に絶えたマンモス[illegible]が地球の歴史の１ページになるにすぎない。もし人類が滅んだとし[illegible]は、また新たなリーダーがあらわれる。そして彼らが自分たちの１００人[illegible]るとき、我々人類の歴史は、その中のほんの１項目にすぎないかも知れな[illegible]

さて、４６億年の１００大ニュースをみてきたが、この次１０１項目目の[illegible]はたして何年後にくるのだろうか。とにかく世の中の動くスピードは加速[illegible]ている。世の中がひっくりかえるような大ニュースは案外、近い将来に起こ[illegible]い。いや、我々が生きている間に、きっと世の中はまだまだ変わってゆくに違[illegible]

歴史は常にビックバンである。